

## 【国際交流委員会関係報告事項】

第1回アジア農村社会学会議（A R S A）での審議・決定事項について

第1回アジア農村社会学会議は、99年1月29日・30日にバンコク・カセサート大学構内において開催された。日程は以下のとおり。初日29日は、午前中、パタヤ・サイマー教授による開会スピーチ、アキン・ラピバット教授によるキーノートスピーチ、午後、農村見学エクスカーション、夕刻レセプション。2日目30日は、開会式のあと、午前4分科会、午後3分科会に分かれての研究報告、そのあと総括討論、総会、夕刻レセプションという順序だった。31日は古都アユタヤへの自由参加のエクスカーションが組まれた。参加者は約100名であり、日本からの参加者は現地参加者も含めて18名（発表者11名）の登録者があり、外国からの参加者では、韓国からの参加者がこれに次いだ。隣国のラオス、カンボジアから各2名の参加者があったのもタイらしかった。

参加記は他の方にお願いし、以下、参加不可能となった川村能夫A R S A副会長の代理で急遽29日夜の役員会に出席した者として、以下で事務的な報告をしておきたい。

(1) 30日総会で規約が提示され（会費は日本・韓国15\$、中国・タイ等10\$、その他5\$との補足説明）了承され、また参加者による会員申込書の記入・提出による会員登録、参加費の一部からの会費充当による会費納入が行われ、形式的には地域学会としての体裁を整えた。今後は各国で会員拡大も進むだろう。ただし、I R S AはこのA R S Aを他の地域学会のような構成メンバーとは認めていないし、またA R S A側にもI R S Aへの分担金支払いや正式加盟などの議論はまだない。

(2) 2000年のブラジル大会ではA R S A会議があり、会長の改選が行われ、現在の韓国・建国大学校のユー・テュン会長から他の人に代わる予定だが、日本あるいは韓国は有力候補なので準備されたいとの示唆があった。なお、事務局も会長職とともに動くしかない、との合意があった。

(3) 2002年ころの次期大会候補地は日本にも要請があったが、I R S A招致の是非をめぐる議論で精一杯だと説明し、今後、韓国、インドを含めて、さらに検討を続けることとなった。

(4) ジャーナル、ニュースレターについては今後、河村副会長を中心にさらに検討することとなった。

（補足）本来、以上はA R S A事務局が議事録を作成し、執行部・評議員に配るべきとみられるが、そうなっていないようで、個人的メモによった。〔文責 北原淳〕

\*今回のA R S A開催について国際交流基金からご支援をえた。日本からの派遣については、1人分のエコノミー航空運賃が助成され、隣国ラオス、カンボジア等からの派遣については、複数名分の旅費と滞在費の全額が助成された。